

# 予測結果の概要

## 1 総人口

**東京都の総人口は、平成 37 年に 1398 万人でピークを迎え、以後減少へ**

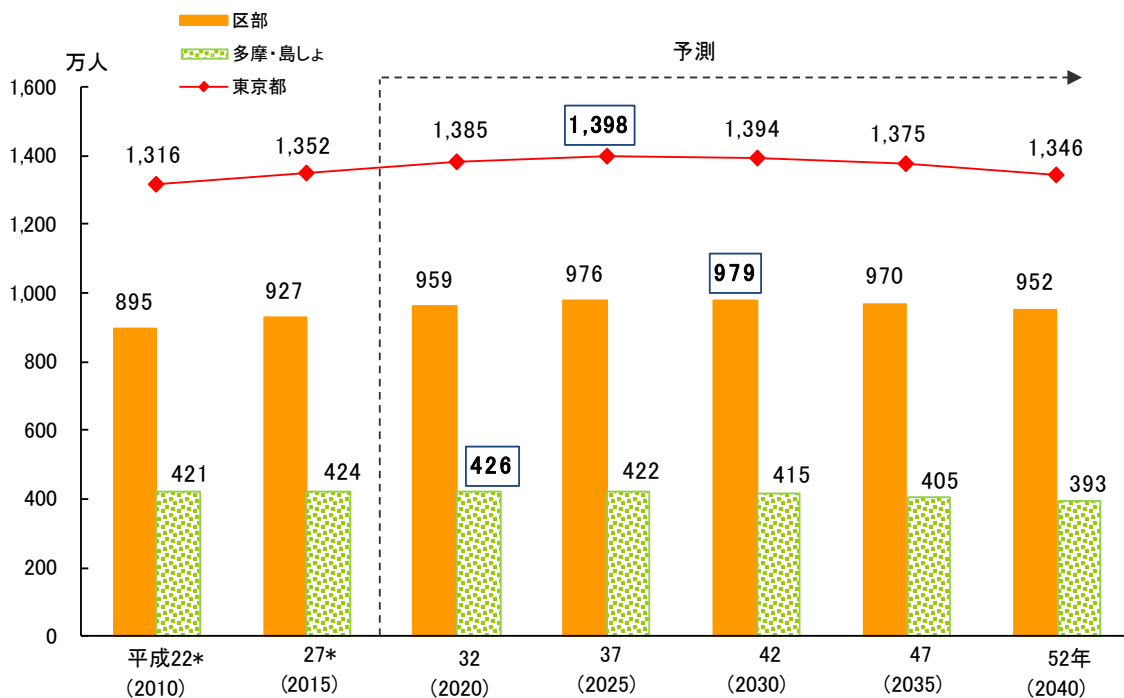
東京都の総人口は、今後もしばらく増加し、平成 37 年に 1398 万人でピークを迎えたのち、減少に転じて平成 52 年には 1346 万人となる見込みである。

人口増減数について要因別にみると、平成 37 年までは自然減の減少幅よりも社会増の増加幅が大きいいため人口増加が続くが、その後は自然減の減少幅が社会増の増加幅を上回るため人口減少となる見込みである。

区部の総人口は、平成 42 年の 979 万人まで増加してピークを迎えたのち、減少に転じて平成 52 年には 952 万人となる見込みである。また、多摩・島しょの総人口は、平成 32 年に 426 万人でピークを迎え、減少に転じて平成 52 年には 393 万人となる見込みである。

(表 1-1、図 1-1、1-2、統計表 1-1)

図 1-1 東京都、区部、多摩・島しょの総人口の推移



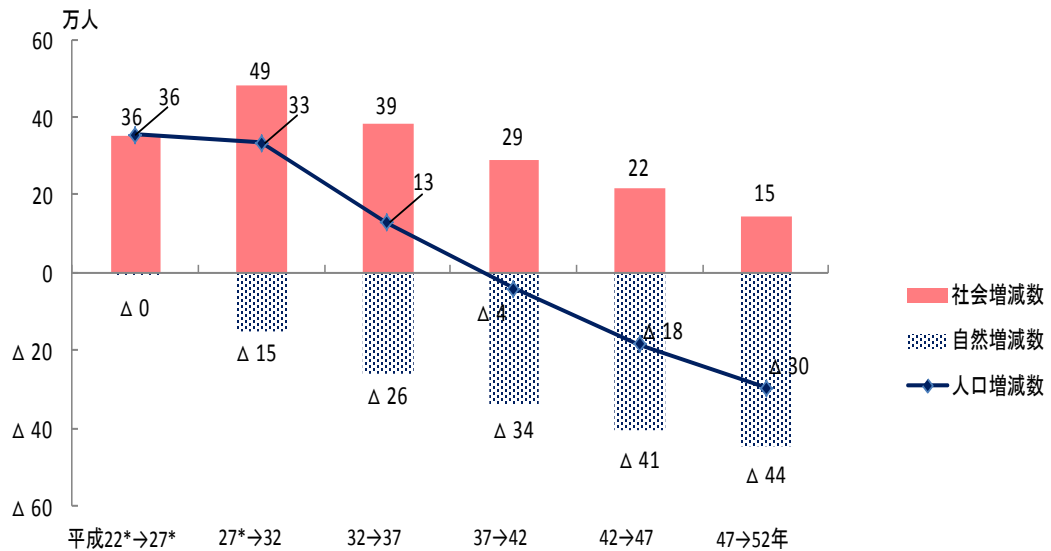
- 注 1) 各年 10 月 1 日時点の値
- 2) \*印は国勢調査結果による実績値
- 3) グラフ中の四角はピーク時の人口を示す。

表 1-1 東京都、区部、多摩・島しょの総人口の推移

地 域	(単位:人)						
	平成22年* (2010)	平成27年* (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
東京都	13,159,388	13,515,271	13,849,942	13,979,158	13,938,408	13,754,388	13,458,482
区 部	8,945,695	9,272,740	9,593,732	9,760,341	9,788,126	9,701,415	9,523,662
多摩・島しょ	4,213,693	4,242,531	4,256,210	4,218,817	4,150,282	4,052,973	3,934,820

- 注 1) 各年 10 月 1 日時点の値
- 2) \*印は国勢調査結果による実績値

図1-2 東京都総人口における要因別人口増減数の推移



注1) \*印は国勢調査結果による実績値

2) 平成22→27年における自然増減数は厚生労働省「人口動態統計」に基づく出生数から死亡数を差し引いた数であり、社会増減数は国勢調査による人口増減数から自然増減数を差し引いた数である。

3) 平成27→32年以降の要因別人口増減数については、予測方法の第2の3(3)【参考】を参照

区市町村別の人口をみると、平成52年まで人口が増加傾向で推移するのは、千代田区、中央区、港区の都心3区となる見込みである。平成47年にピークを迎えるのは江東区、平成42年にピークを迎えるのは文京区、台東区、品川区、渋谷区、板橋区となる見込みである。平成37年までには区部の半数以上と多摩・島しょの全ての市町村がピークを迎える見込みである。

(表1-2、統計表1-1)

表1-2 区市町村別人口のピーク時期

地域	平成32年までにピークを迎える区市町村	平成37年にピークを迎える区市町村	平成42年にピークを迎える区市町村	平成47年にピークを迎える区市町村	平成52年まで増加する区市町村
区部	足立区、葛飾区、江戸川区	新宿区、墨田区、目黒区、大田区、世田谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、練馬区	文京区、台東区、品川区、渋谷区、板橋区	江東区	千代田区、中央区、港区
多摩・島しょ	八王子市、立川市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、町田市、東村山市、国立市、福生市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村	武蔵野市、調布市、小金井市、小平市、日野市、国分寺市、狛江市、稲城市、日の出町、小笠原村	-	-	-

## 2 男女別人口

### 東京都の人口性比は、一貫して低下

東京都の総人口を男女別にみると、男性、女性共に平成 37 年にピークを迎えたのち、減少に転じて平成 52 年には男性 654 万人、女性 691 万人となる見込みである。

東京都の人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は、平成 27 年以降も一貫して低下を続け、平成 52 年には 94.6 となり平成 27 年の 97.3 と比べて 2.7 下回る見込みである。

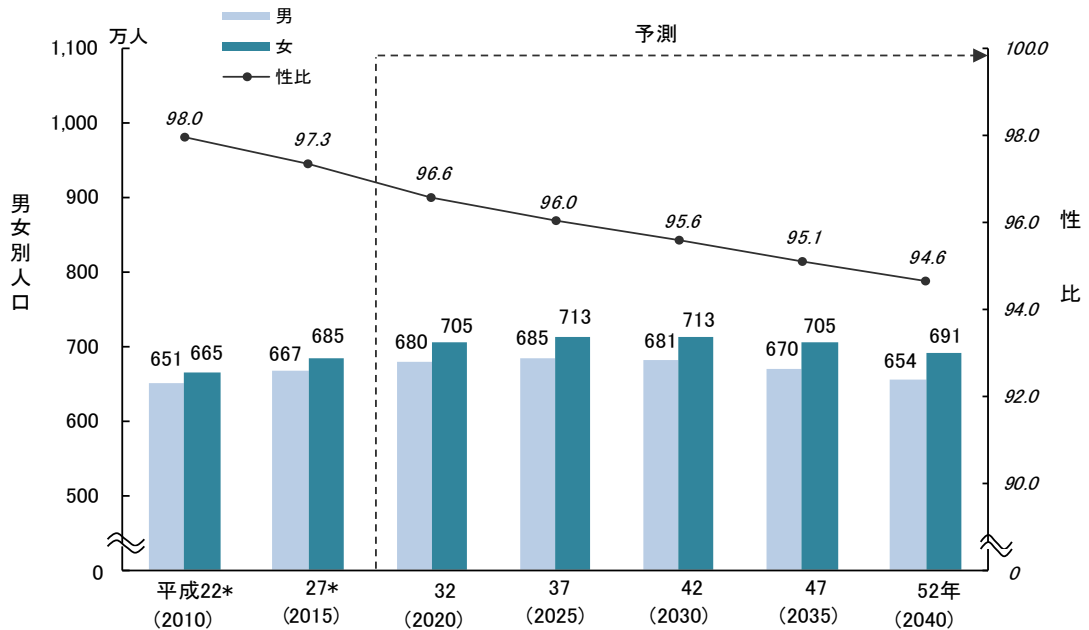
（表 2-1、図 2-1、統計表 1-2、1-3、5）

表 2-1 東京都の男女別人口及び人口性比の推移

		(単位:人)						
性別	平成22年* (2010)	平成27年* (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	
総数	13,159,388	13,515,271	13,849,942	13,979,158	13,938,408	13,754,388	13,458,482	
男	6,512,110	6,666,690	6,804,155	6,848,242	6,811,185	6,704,575	6,543,766	
女	6,647,278	6,848,581	7,045,787	7,130,916	7,127,223	7,049,813	6,914,716	
性比	98.0	97.3	96.6	96.0	95.6	95.1	94.6	

- 注 1) 各年 10 月 1 日時点の値  
 2) \*印は国勢調査結果による実績値  
 3) 性比は女性 100 人に対する男性の数

図 2-1 東京都の男女別人口及び人口性比の推移



- 注 1) 各年 10 月 1 日時点の値  
 2) \*印は国勢調査結果による実績値  
 3) 性比は女性 100 人に対する男性の数

区部の総人口を男女別にみると、男性、女性共に平成 42 年にピークを迎えたのち、減少に転じて平成 52 年には男性 463 万人、女性 489 万人となる見込みである。

区部の人口性比は、平成 52 年まで一貫して低下を続け、平成 52 年には 94.6 となり、平成 27 年の 97.1 と比べて 2.5 下回る見込みである。

また、多摩・島しょの総人口を男女別にみると、男性は平成 22 年に 210 万人で既にピークを迎えており、女性は平成 32 年に 216 万人でピークを迎える見込みである。

多摩・島しょの人口性比は、平成 52 年まで一貫して低下を続け、平成 52 年には 94.7 になり、平成 27 年の 98.0 と比べて 3.3 下回る見込みである。

(表 2-2、統計表 1-2、1-3、5)

表 2-2 区部、多摩・島しょの男女別人口及び人口性比の推移

		(単位:人)						
地域	性別	平成22年* (2010)	平成27年* (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)
区部	総数	8,945,695	9,272,740	9,593,732	9,760,341	9,788,126	9,701,415	9,523,662
	男	4,412,050	4,567,247	4,709,157	4,781,719	4,785,471	4,730,537	4,629,889
	女	4,533,645	4,705,493	4,884,575	4,978,622	5,002,655	4,970,878	4,893,773
	性比	97.3	97.1	96.4	96.0	95.7	95.2	94.6
多摩・島しょ	総数	4,213,693	4,242,531	4,256,210	4,218,817	4,150,282	4,052,973	3,934,820
	男	2,100,060	2,099,443	2,094,998	2,066,523	2,025,714	1,974,038	1,913,877
	女	2,113,633	2,143,088	2,161,212	2,152,294	2,124,568	2,078,935	2,020,943
	性比	99.4	98.0	96.9	96.0	95.3	95.0	94.7

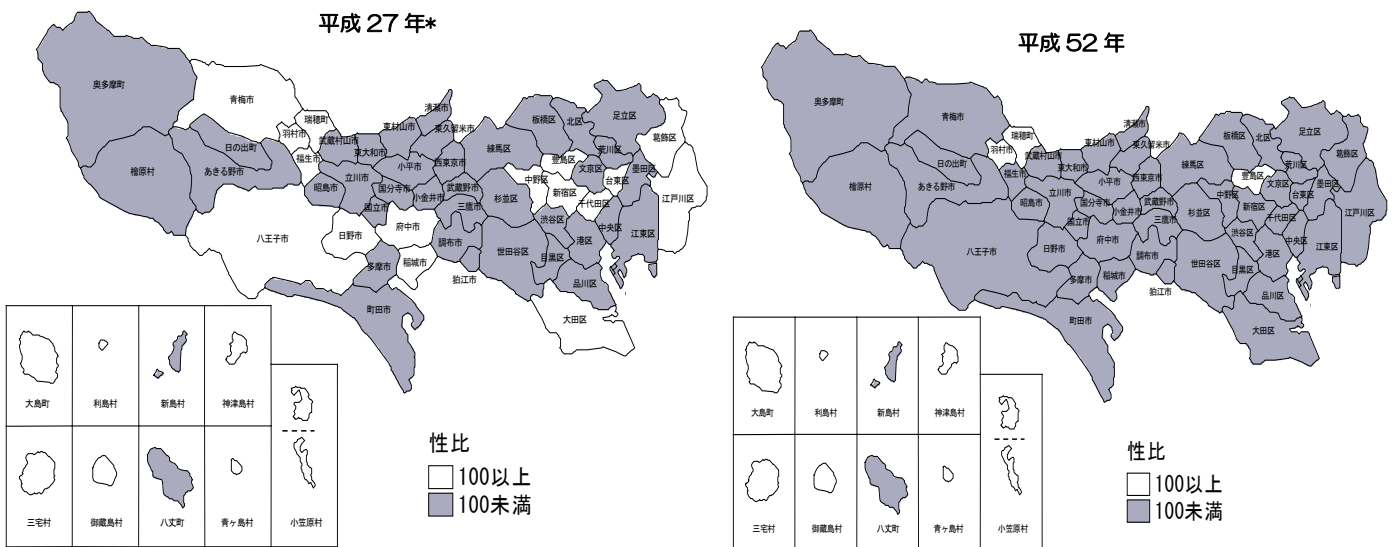
注 1) 各年 10 月 1 日時点の値

2) \*印は国勢調査結果による実績値

3) 性比とは女性 100 人に対する男性の数

区市町村別に人口性比をみると、平成 52 年にはほとんどの区市町村で 100 を下回る見込みである。ちなみに、平成 27 年で人口性比が最も高いのは小笠原村の 167.7 で、最も低いのは港区の 89.2 である。平成 52 年で人口性比が最も高いのは平成 27 年と同様小笠原村の 167.9 で、最も低いのは世田谷区の 84.6 となる見込みである。(図 2-2、統計表 5)

図 2-2 区市町村別人口性比(平成 27 年→平成 52 年)



注 1) \*印は国勢調査結果による実績値

2) 性比とは女性 100 人に対する男性の数

### 3 人口重心

**東京都の人口重心は、平成 52 年までの 25 年間に東へ 706 メートル移動**

平成 27 年の東京都の人口重心は、東経 139 度 38 分 33 秒、北緯 35 度 41 分 08 秒(杉並区松ノ木一丁目松ノ木中学校付近)に位置している。25 年後の平成 52 年には、人口重心が東経 139 度 39 分 01 秒、北緯 35 度 41 分 07 秒 (杉並区大宮一丁目済美養護学校付近) に位置し、東へ 706 メートル移動する見込みである。 (表 3、図 3)

**表 3 東京都の人口重心の推移**

年次	緯度	経度	位置	前時点からの移動距離
平成2年*	35度 41分10秒	139度 38分33秒	東京都杉並区松ノ木一丁目松ノ木小学校付近	-
7*	35 41 09	139 38 19	松ノ木一丁目和田堀公園付近	西に353.4m
12*	35 41 10	139 38 16	松ノ木一丁目和田堀公園付近	西に81.5m
17*	35 41 08	139 38 19	松ノ木一丁目和田堀公園付近	東に97.4m
22*	35 41 09	139 38 26	松ノ木一丁目松ノ木中学校付近	東に178.7m
27*	35 41 08	139 38 33	松ノ木一丁目松ノ木中学校付近	東に178.7m
32	35 41 07	139 38 42	大宮一丁目郷土博物館付近	東に228.4m
37	35 41 07	139 38 48	大宮一丁目大宮中学校付近	東に150.9m
42	35 41 07	139 38 54	大宮一丁目済美小学校付近	東に150.9m
47	35 41 07	139 38 58	大宮一丁目済美小学校付近	東に100.6m
52	35 41 07	139 39 01	大宮一丁目済美養護学校付近	東に75.4m

注) \*印は、国勢調査結果による実績値から算出

**図 3 東京都の人口重心 (平成 27 年→平成 52 年)**



人口重心とは、対象領域内（東京都内）の一人ひとりが同じ重さを持ち、対象領域内の部分地域（各区市町村）の人口が、部分地域の区市町村庁舎にいと仮定した場合の対象領域内の平衡点をいう。各区市町村庁舎所在地の緯度及び経度は「世界測地系」を用いている。具体的な計算方法は、次のとおりである。

$$\text{人口重心} = \frac{\sum X_i P_i}{\sum P_i}$$

$X_i$ は各区市町村の庁舎所在地の緯度及び経度を秒単位で表した値であり、 $P_i$ はそれに対応する各区市町村の人口である。移動距離と方向は、国土地理院の測量計算サイト「距離と方位角の計算」により算出した。

国土地理院測地部 URL <http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/surveycalc/bl2stf.html>